

～句友たちの句から発掘してみました

私の句友たちは、まじめな俳句をつくっておられる方が多いので、  
会報に載った一句一句に笑いをたづねる作業を続けてきました。

そのつもりで探してみると、あるものですね。

八木会長が言われたように「滑稽は失われていたのではなく、  
隠れていた」のです。

### 一匹の蜂襲ひくる夏座敷

紀太くにを  
(汗を流して逃げ廻る作者に可笑しみ)

### 月仰ぎおおデモニッシュ冴返る

稲津 昌  
(酔いの勢いで叫んだ言葉がすごい)

### あれこれとみんなグッバイ年忘れ

桜井さくら  
(女性のこの潔い表現に羨望の笑いも)

### 枯蠮螋関節動きうごき出す

田口武司

(自嘲の自画像か、作者は去年急逝された)

### 春一番ピザは放られ宙を舞ふ

朝倉松枝

(厨房の作業を取合わせた離れ技がお見事)

### 百歳の母のくしやみや葱坊主

田中佐代

(かわいいお母さんに思わず顔が綻びる)

### 骨々とコツコツと梅咲きにけり

宮崎滴水

(梅の枝ぶりに引っ掛けた表現が面白い)

### 草石蚕めは文字も形もいけすかず

佐藤好壺

(言われてみれば成る程と納得しておかしい)

## 春闘や禪の色も多数決

北川寛山

(さて女性は？と裏にも笑いがありそうだ)

## うちづらのぶつかりあつて山眠る

尾崎京子

(子供の寝相と山々の麓の類似に面白さ)

## 山紅葉ええあんべえの風呂じゃのう

池田洸星

(癒される言葉にのどかな情景が浮び上がる)